

北海道産イヘバヘ亜科^{*)}

加藤 静 夫

(北海道農事試験場昆虫部)

THE SUBFAMILY MUSCINAE OF HOKKAIDO.

By SHIZUO KATO.

本邦産イヘバヘ科の分類學的研究に就いては、P. STEIN 氏が 1915 年に H. SAUTER 氏の臺灣採集品に關する研究を發表して、同地のものだけは多少明かとなつたが、其の他の地方からは D. W. COQUILLET, P. STEIN, 松村松年, 素木得一, 山田信一郎等の諸氏に依り斷片的に報告されて居るだけで、總括的には未だ殆ど研究されて居ない状態にある。

イヘバヘ科はイヘバヘ, サシバヘ, タネバヘ, ダイコンバヘ等の害蟲を始め潜葉性, 潜莖性の種類をも多數含むもので、一般衛生, 畜産, 農園藝上重要な關係を有する 1 科である。茲には北海道産イヘバヘ科の中、最も普通に知られて居るイヘバヘ, サシバヘ等を含むイヘバヘ亜科に就いて述べるが、本文中の檢索表は本州中部以北のイヘバヘ亜科全般に互つて利用が出来るから、大方の御參考になれば幸である。

本研究は北海道帝國大學農學部昆虫學教室, 北海道農事試験場昆虫部所藏標品並に著者自身の採集品に基くものであるが、從來本邦から未記録の種類に對しては、北海道以外の産地に就いても上記の所藏標品に依り記録することにした。

本報文を草するに當り、北海道帝國大學名譽教授松村松年博士の著者に對する常に絶へざる御指導と、北海道農事試験場技師桑山覺, 北海道帝國大學助教授内田登一兩博士の御厚意と御援助に對して厚く感謝の意を表する次第である。

イヘバヘ科及びイヘバヘ亜科の特徴

イヘバヘ科の分類法に就いては歐米の學者間に多少の異論があるが、著者

*) 北海道農事試験場昆虫部業績

は大體歐洲の各専門家及び最近米國に於ても C. H. CURRAN 氏等に依つて提唱されて居る分類法を基礎として、從來本邦に於て採用せられて居るイヘバヘ科の限界を少しく變更したいと思ふ。則ちこの分類法に依つて本科の主な特徴を述べて見ると、普通後胸側下刺毛 (hypopleural bristles) を缺いて居るが、若し之が存在して居る場合には細毛状となつて居るか、或は翅基下刺毛 (ptero-pleural bristles) を缺いて居る；腹胸側刺毛 (sternopleural bristles) の配列は前方から 1:1, 1:2, 2:2, 又は之の變形であつて、決して 2:1 となることはない；中脈は翅の縁端まで直線に延長して居るか、或は先端がく字状に前方に屈曲して居る；鱗状片は大きくて顯著である；腹部は外觀上 4 節で、第 5 節以下が生殖器節となつて居ること等であつて、以上の特徴から著者は從來本邦に於て獨立した 1 科として取扱はれて居た ハナバヘ科を 1 亞科としてイヘバヘ科に編入した。而して從來イヘバヘ科に編入されて居たキンバヘ (*Lucilia caesar* LINNÉ), クロルリバヘ (*Calliphora erythrocephala* MEIGEN) 等の類は當然本科より除外し、C. H. CURRAN 氏 (1934 年) の提唱するやうに = クバヘ科と一緒にして *Metopiidae* なる科を創設するか、或は F. HENDEL 氏其の他の歐洲の専門家の意見のやうに之等をヤドリバヘ科に編入して夫々亞科として獨立させるのが適當と考へられる。

本邦産イヘバヘ科はイヘバヘ亞科 (Muscinae), トゲハナバヘ亞科 (Phaeniniinae), マルハナバヘ亞科 (Mydaeinae), ハナバヘ亞科 (Anthomyiinae), ヤチハナバヘ亞科 (Coenosuinae) の 5 亞科を含んで居るが、イヘバヘ亞科は中脈の先端が多少なりとも前方に屈曲して居り、觸角刺毛が長羽毛状をなして居る點で明かに他の亞科と區別することが出来る。

族の検索表

- 1 (2) 口吻は肉質で軟く、太くて短い。…………… I. イヘバヘ族 (Tribe Muscini)
 2 (1) 口吻は角質化して堅く、細長い。…………… II. サシバヘ族 (Tribe Stomoxydini)

I. イヘバヘ族

Tribe Muscini

属の検索表

- 1 (14) 中脈は弓状に圓味を帯びて前方に屈曲して居る。…………… 2
 2 (5) 中肢脛節の後内面に 1 本の剛毛がある。…………… 3

- 3 (4) 第1徑脈の基半部に短毛列がある。……………ミドリハナバヘ屬 (Genus *Dasyphora* R. D.)
- 4 (3) 第1徑脈には短毛列がない。……………コミドリハナバヘ屬 (Genus *Pyrellia* R. D.)
- 5 (2) 中肢脛節の後内面には剛毛がない。……………6
- 6 (9) 複眼に細毛が生へて居る。……………7
- 7 (8) 腹部は幅廣く、稍々圓形である。中脈の先端は顯著に屈曲して居る。腹胸側刺毛 (sternopleural bristles) の配列は 1:2 である。……………セマダラハナバヘ屬 (Genus *Graphomyia* R. D.)
- 8 (7) 腹部は細長く、稍々扁平である。中脈は殆ど直線をなして居り、先端だけ少しく屈曲して居る。腹胸側刺毛 (sternopleural bristles) の配列は 2:2 である。……………ウスホシハナバヘ屬 (Genus *Myiospila* Rond.)
- 9 (6) 複眼には細毛が生へて居ない。……………10
- 10 (11) 體色は光澤のある黒色で、翅の基部は鮮黄色を呈して居る。菱状部には多數の長剛毛を有して居る。…キバネクロバヘ屬 (Genus *Mesembrina* Meig.)
- 11 (10) 體色は光澤ある黒色を呈せず、翅の基部も亦鮮黄色でない。菱状部には特別の長剛毛は有して居ない。……………12
- 12 (13) 中刺毛 (acroscical bristles) は強大で顯著である。菱状部の先端は赤褐色を呈して居る。……………オホイヘバヘ屬 (Genus *Muscina* R. D.)
- 13 (12) 中刺毛 (acroscical bristles) は微細で、不明瞭である。菱状部の先端は赤褐色を呈して居ない。……………セジロハナバヘ屬 (Genus *Morellia* R. D.)
- 14 (1) 中脈はく字形に角立つて前方に屈曲して居る。體色は光澤ある金綠色乃至青藍色を呈して居ない。……………イヘバヘ屬 (Genus *Musca* L.)

I. イヘバヘ屬

Genus *Musca* LINNÉ

Fauna Suec., Ed. II, p. 439 (1761)

中脈は角立つて鋭く前方に屈曲して居る。體色は金綠色、青藍色等のやうな金屬性色彩を有して居ない。

種の検索表

♂

- 1 (2) 複眼間は比較的幅廣く、複眼は相離反して居る…イヘバヘ (*M. domestica* L.)

- 2 (1) 複眼は殆ど相接着して居る。……………クロイヘバヘ (*M. corvina* FABR.)
♀
- 1 (2) Frontal vitta は parafrontalia の約4倍の幅を有して居る。腹部の基部は黄色を呈して居る。……………イヘバヘ (*M. domestica* L.)
- 2 (1) Frontal vitta は parafrontalia の約2倍の幅を有して居る。腹部の基部は黄色を呈して居ない。……………クロイヘバヘ (*M. corvina* FABR.)

1. イヘバヘ

Musca domestica LINNÉ

Musca domestica LINNÉ, Fauna Suec., Ed, II, p. 453 (1761); 松村, 日本昆蟲大圖鑑, 379 頁 (1931); 素木, 日本昆蟲圖鑑, 19 頁 (1932)

本種は北海道何れの地にも最も普通に産し、世人周知の如く、屋内に多数飛來して種々な病菌を傳播するので、吾人の保健衛生上重要な関係のある種類である。

體長: 7~8 mm.

2. クロイヘバヘ

Musca corvina FABRICIUS

Musca corvina FABRICIUS, Spec. Ins., II, p. 440 (1781); BEZZI et STEIN, Katal. Palaearkt. Dipt. III, p. 603 (1907); 松村, 日本昆蟲大圖鑑, 379 頁 (1931)

本種は前者と同様に北海道各地に廣く分布して居るが、屋内に飛來することは比較的少ない。札幌附近では7,8月の交野外で雑草の葉上や花上に極く普通に發見される。

體長: 6.5~8 mm.

II. ミドリハナバヘ屬 (新稱)

Genus *Dasyphora* ROBINEAU-DESVOIDY

Essai sur les Myod., p. 409 (1830)

複眼には細毛を粗生して居る。中脈は弓狀に前方に屈曲し、第1徑脈の基半部には細毛列を有して居る。中肢脛節の後内面には1本の剛毛がある。體色は青藍色で金屬光澤を有して居る。

3. セスヂミドリハナバヘ (新稱)

Dasyphora cyanella MEIGEN*Musca cyanella* MEIGEN, Syst. Besch., V, p. 77 (1826)*Lucilia eriophthalma* MACQUART, Recueil Soc. Sc. Agric. Lille, p. 168 (1833)*Pyrellia cyanella* BEZZI et STEIN, Katal. Palaearkt. Dipt. III, p. 607 (1907)*Pyrellia eriophthalma* SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. d. Kaiser. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, no. 2, p. 229 [177] (1911)*Dasyphora eriophthalma* STEIN, Arch. f. Naturg. LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 17 (1916)*Dasyphora cyanella* SCHNER, Fauna Austr. I, p. 588 (1862); SÉGUY, Dipt. Authomyides, p. 361 (1923); KARL, Tierwert Deutsch., Teil 13, III. p. 8 (1928)

産地——北海道：1♀，札幌，4/VI，1905，松村松年。

本州：1♂ 8♀♀，八幡平（秋田縣），3/VIII，1932，著者；1♂，日光，23/VIII，1917，GALLOIS。

本種は従来本邦からは未記録の種類である。體は全體光澤のある青藍色で、胸部の横溝部から前方に不明瞭な黒色の4縦線があり、其の中央の2縦線の間と兩側の縦線の外側は白粉を装ふて居るので、後方から見ると3條の幅廣い白色の縦線として見える。本種は比較的稀な種類で、山地に發見される。松村博士の採集せられた標品には札幌市外藻岩山とあり、著者は八幡平登山の際山林内の雑草葉上で採集した。

體長：7~8.5 mm。

III. コミドリハナバヘ屬 (新稱)

Genus *Pyrellia* ROBINEAU-DESVOIDY

Essai sur les Myod., p. 462 (1830)

體色は金綠色で、金屬光澤を有して居る。中脈は弓狀に前方に屈曲し、第1徑脈の基半部には剛毛列がない。中肢脛節の後内面には1本の剛毛がある。

4. コミドリハナバヘ (新稱)

Pyrellia cadaverina LINNÉ.*Musca cadaverina* LINNÉ, Fauna Suec., Ed. II, p. 451 (1761)*Pyrellia cadaverina* SCHNER, Fauna Austr. I, p. 592 (1862); BEZZI et STEIN,

Katal. d. Palaearkt. Dipt. III, p. 606 (1907); SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. der Kaiser. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, no. 2, p. 229 [177] (1911); STEIN, Arch. f. Naturg. LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 18 (1916); SÉGUY, Dipt. Anthomyides, p. 360 (1923); KARL, Tierwelt-Deutsch., Teil 13, III, p. 9 (1928)

産地——北海道: ♂ ♀ 多数, 琴似, 10~15/VII, 1936, 著者; 1 ♀, 札幌, 22/VII, 1923, 高野秀三。

本州; 4 ♂ ♂, 10 ♀ ♀, 八幡平 (秋田縣), 29/VII, 1932, 著者。

本種も従来本邦より未記録の種類である。前者に酷似して居るが、體色は一樣に光澤のある金綠色乃至綠色で斑紋なく、體長が著しく小形であるので一見區別が出来る。本種は札幌附近では7月頃相當多産し、普通路傍の雑草上に發見されるが、著者は又野外で排泄された馬糞上に多数の本種が群集して居るのを採集した。

體長: 4.5~5.5 mm.

IV. セマダラハナバへ屬

Genus *Graphomyia* ROBINEAU-DESVOIDY

Essai sur les Myod., p. 403 (1830)

複眼は細毛を有して居る。中脈は弓状に屈曲して居る。中肢脛節の内面には剛毛がない。腹胸側刺毛 (sternopleural bristles) の配列は 1:2 である。腹部の第2, 第3節の基部中央には1個, 前縁に沿ふて4個の黑色斑紋があり, 其の兩側のものは著しく小形である。

5. セマダラハナバへ

Graphomyia maculata SCOPOLI

Musca maculata SCOPOLI, Entom. carn., p. 326 (1763)

Graphomyia maculata SCHINER, Fauna Austr. I, p. 582 (1862); BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt., III, p. 599 (1907); SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. der Kaiser. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, no. 2, p. 172 [120] (1911); STEIN, Arch. f. Naturg. LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 15 (1916); SÉGUY, Dipt. Anthomyides, p. 350 (1923); KARL, Tierwelt Deutsch., Teil 13, III, p. 10 (1928); 松村, 日本昆虫大圖鑑, p. 378 (1931)

本種は北海道各地に廣く分布せる普通種である。野外の雑草, 雑木の葉上

や花上にクロイハバヘ等と同時に採集が出来る。北海道帝國大學農學部昆虫學教室には土井久作氏採集の千島紗那産のものも♂♀1頭宛所藏されて居る。

體長；7~9.5 mm。

V. ウスホシハナバヘ屬 (新稱)

Genus *Myiospila* RONDANI

Prodr., I, p. 91 (1856)

複眼は細毛を有して居る。中脈は先端近くで、少しく折り曲つて居る。中肢脛節の内面には剛毛がない。腹胸側刺毛 (sternopleural bristles) の配列は2:2である。腹部第2, 第3節の背面には暗褐色の2小紋がある。

6. ウスホシハナバヘ (新稱)

Myiospila meditabunda FABRICIUS

Musca meditabunda FABRICIUS, Spec. Ins., II, p. 444 (1781)

Anthomyia meditabunda MEIGEN, Syst. Besch., V, p. 79 (1826)

Mydaea meditabunda BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt., III, p. 642 (1907)

Mydaea (Myiospila) meditabunda SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. der Kaiser. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, No. 2, p. 159 [107] (1911)

Myiospila meditabunda SCHINER, Fauna Austr. I, p. 598 (1862); STEIN, Arch. f. Naturg., LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 71 (1916); MALLOCH, Trans. Am. Ent. Soc., XLIV, p. 265 (1918); SÉGUY, Dipt. Anthomyides, p. 346 (1923); KARL, Tierwelt Deutsch., Teil 13, III, p. 10 (1928)

産地——北海道：2♂♂, 札幌, 20/V, 1923, 高野秀三；1♂, 札幌, 21/V, 1924, 高野秀三；1♂, 札幌圓山, 15/V, 1923, 採集者不明。

本種は従来本邦から未記録の種類である。體色は地色黒色であるが、胸部に黄灰色粉を装ひ、背面には顯著な黒色の4縦線がある。腹部は一様に黄灰色粉で覆はれ、第2, 第3兩腹節の背面中央には暗褐色の2小紋を有して居る。本種は著者自身未だ採集したことはないが、上記の標品に依れば5月頃出現する比較的稀な種類であると言へやう。

體長：7 mm。

VI. キバネクロバヘ屬

Genus *Mesembrina* MEIGEN

Syst. Besch., V, p. 10 (1826)

體は光澤ある黒色で、複眼には細毛を有して居ない。中脈は弓狀に屈曲して居る。菱狀部の前縁には多數の長剛毛がある。翅の基部及鱗狀片は鮮黄色を呈して居る。

7. キバネクロバへ

Mesembrina sp.

Mesembrina Latreillei 松村 (nec DESVOIDY) 日本千蟲圖解, II. 110 頁 (1905); 同, 日本昆蟲大圖鑑, 378 頁 (1931)

従來本邦に於て用ひられて居た本種の學名 *M. Latreillei*——之は松村松年博士が D. W. COQUILLET 氏に依頼して査定されたものであるが——は既に STEIN 氏 (1917) に依つて歐洲産の普通種 *M. meridiana* の異名であることが明かにせられて居る。然るに本種は *M. meridiana* とは全く別種であり、且現在世界に於ける本屬の既知種は僅に 8 種に過ぎないのであるが、種名の決定に猶多少の時日を要するので、茲には未決定の儘記録し近き將來に於て改めて本種の學名を決定したい考である。

本種はイへバへ亞科中で最も大きく體長 12~14 mm に達し、體色は光澤の強い黒色で、胸背の前半に幅の廣い白色の 3 縦線があり、翅の基部が鮮黄色を呈して居る點等で他の何れの種類とも明かに區別することが出来る。猶本種の分布に就いては松村博士は北海道・本州・歐洲とされて居るが、所藏標品中には本州産のものは發見出来なかつたので、本州に産するか否かは疑問として置き度い。北海道及び樺太の各地には相當廣く分布して居るが、個體數は餘り多くなく、山林内の雜草の花上や葉上で採集することが出来る。

VII. オホイへバへ屬

Genus *Muscina* ROBINEAU-DESVOIDY

Essai sur les Myod., p. 406 (1830)

中脈は弓狀に屈曲して居る。中刺毛 (acrostical bristles) は顯著で 2 列に配列して居る。菱狀部の先端は赤褐色を呈して居る。

種の檢索表

♂♀

1 (2) 脛節は黄色である。……………オホイへバへ (*M. stabulans* FALL.)

- 2 (1) 脛節は黒色である。…………… 3
 3 (4) 小髭鬚は黒色で、中脈は殆ど直線をなし先端近くに於て僅に屈曲して居る。
 ……………セアカクロバヘ (*M. assimilis* FALL.)
 4 (3) 小髭鬚は黄色で、中脈は顯著に屈曲して居る。……………
 ……………オホセアカクロバヘ (*M. pabu'orum* FALL.)

8. オホイヘバヘ

Muscina stabulans FALLEN

Muscina stabulans FALLEN, Musc., p. 52 (1823)

Cyrtoneura stabulans SCHINER, Fauna Austr. I, p. 597 (1862); 松村, 日本昆虫大圖鑑, 378 頁 (1931)

Muscina stabulans BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt., III, p. 614 (1907)

本種は北海道各地に廣く分布し、屋内にも飛來する最も普通種である。

體長：6.5~8.5 mm.

9. セアカクロバヘ (新稱)

Muscina assimilis FALLEN

Muscina assimilis FALLEN, Musc., p. 56 (1823)

Cyrtoneura assimilis SCHINER, Fauna Austr. I, p. 598 (1862)

Muscina assimilis BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt., III, p. 613 (1907); SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. der Kaiserl. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, no. 2, p. 173 [121] (1911); STEIN, Arch. f. Naturg. LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 19 (1916); Séauv, Dipt. Anthomyides, p. 352 (1923); KARL, Tierwelt Deutsch, Teil 13, III, p. 12 (1928)

産地——北海道：1♀, 札幌, 26/V, 1916, 松村松年; 1♂, 神居古潭, 高野秀三; 1♀, 定山溪, 30/VIII, 著者。

樺太：1♀, 一の澤, 15/VIII, 1923, 松村松年。

本州：3♀, 上高地, 30/VII, 1933, 著者。

本種は従來本邦から未記録の種類である。體の地色は黒色であるが全體淡い灰色粉で覆はれて居る。胸背には後方から見ると黒色の4縦線が明瞭に見られる。比較的稀な種類であるが、山地の雜草葉上に發見することが出来る。

體長：6.5~8.5 mm.

10. オホセアカクロバへ (新稱)

Muscina pabulorum FALLEN

Musca pabulorum FALLEN, Musc., p. 51 (1823)

Cyrtoneura pabulorum SCHINER, Fauna Austr. I, p. 597 (1862)

Muscina pabulorum BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt. III, p. 614 (1907); SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. der Kaiser. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, no. 2, p. 173 [121] (1911); STEIN, Arch. f. Naturg. LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 19 (1916); SÉGUY, Dipt. Anthomyides, p. 353 (1923); KARL, Tierwelt Deutsch., Teil 13, III, p. 12 (1928)

産地——北海道: 3♂♂, 札幌, 22/VII, 1923, 高野秀三; 2♀♀, 札幌, 13/V, 松村松年; 1♀, 定山溪, 22/IX, 松村松年; 1♀, 定山溪, IX, 1931, 著者。

本州: 1♀, 上高地, 30/VII, 1933, 著者。

本種は従来本邦からは未記録の種類である。オホイヘバへに酷似して居るが、上記の検索表に示せる如く明かに區別され、又稍々本種の方が大形である。比較的稀な種類であつて、セアカクロバへと共に山林内の雑草葉上等で採集が出来る。

體長: 9.5~10.5 mm.

VIII. セジロハナバへ屬 (新稱)

Genus *Morellia* ROBINEAU-DESVOIDY

Essai sur les Myod., p. 405 (1830)

中脈は弓状に前方に屈曲し、第4, 第5徑脈合脈は基半部に細毛列を有して居る。中刺毛 (acrostical bristles) は不明瞭である。菱状部の先端は赤褐色でない。

||. セジロハナバへ (新稱)

Morellia hortorum FALLEN

Musca hortorum FALLEN, Acta Holm., p. 252 (1816); MEIGEN, Syst. Besch., V, p. 73 (1826)

Cyrtoneura hortorum SCHINER, Fauna Austr. I, p. 597 (1862)

Morellia hortorum BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt., III, p. 601 (1907); SCHNABL et DZIEDZICKI, Nova Acta, Abh. der Kaiser. Leop.-Carol. Deutsch. Akad. der Naturforscher, XCV, no. 2, p. 174 [122] and p. 328 [276] (1911); STEIN, Arch. f. Naturg., LXXXI, 1915, Abt. A, Heft 10, p. 16 (1916); SÉGUY, Dipt. Anthomyides,

p. 349 (1923); KARR, Tierwelt Deutsch., Teil 13, III. p. 13 (1928)

産地——北海道：2♂♂, 札幌, 26/V, 1916, 松村松年：2♂♂, 札幌, 高野秀三。

樺太：1♀, 一の澤, 25/VIII, 1924, 松村松年：3♀♀, 小沼, 23/VII, 1934, 渡邊千尙：1♀, 野田, 6/VIII, 1934, 渡邊千尙。

本州：1♂, 日光, VII~VIII, 1917, GALLOIS; 1♀, 日光, VIII, 1912, 松村松年：1♂, 八幡平(秋田縣), 29/VII, 1932, 著者：1♂, 但島, 5/VIII, 1929, 岡田一次。

朝鮮：1♀, 1♂, 水原; 1/IX, 1922, 内田登一・高野秀三。

本種は従来本邦から未記録の種類である。體色は地色黒色で、半光澤を有して居る。胸背には3條の白色の縦線があり、中央のものは長く菱狀部まで延長して居る。腹部は青銅色粉で覆はれ背面中央には黒色の細い1縦線を有して居る。本種は札幌附近には比較的稀ならざる種類であつて、クロイヘバヘ、セマダラハナバヘ等と同じ条件の下で採集出来る。

體長：6.5~8.5 mm。

II. サシバヘ族

Tribe Stomoxydini

IX. サシバヘ屬

Genus *Stomoxys* GEOFFROY

Hist. d. Ins., II, p. 538 (1764)

小腮鬚は口吻より短く、觸角刺毛は上面のみに細毛を有して居る。

12. サシバヘ

Stomoxys calcitrans LINNÉ

Conops calcitrans LINNÉ, Faune Suec., Ed. II, p. 467 (1761)

Stomoxys calcitrans BEZZI et STEIN, Katal. d. Palaearkt. Dipt., III, p. 611(1907); 松村, 日本昆蟲大圖鑑, p. 381 (1931); 素木, 日本昆蟲圖鑑, p. 20 (1932).

本種は北海道各地に廣く分布して居るが、近年特に渡島國に於て本種の發生甚しく、家畜殊に乳牛の飼養上一大障害を來して居る。北海道に於ける家畜衛生上將來大に注意を要する害蟲の一である。

體長：6~7.5 mm。